

兵庫県立伊丹高等学校創立110周年記念式典

兵庫県立伊丹高等学校
平成24年10月6日



学校長式辞

校長 秋田久子

緑に薫る学び舎、兵庫県立伊丹高等学校は創立110周年を迎えました。今日ここに兵庫県議会議員 加茂忍様をはじめ多数のご来賓をお迎えして、このように盛大に110周年を祝えますこと、なにより有り難く存じます。来賓の皆様、高いところからではございますが、心から感謝を申し上げます。ありがとう存じます。

また、米寿を越えられた12名の大先輩はじめたくさんの先輩方、保護者・地域の皆様も、駆けつけてくださいました。ありがとうございます。うれしゅうございます。

1902年（明治35年）、伊丹桜が崎の地に県立伊丹中学校は呱呱の声を上げました。1904年には日露戦争が起こりました。時代のうねりは激しく、歴史は今に至るまでその振幅の中で揺れを繰り返しながら進んでいます。伊丹中学校は「誠実、克己、忠恕」という人としての在り方を校訓に掲げ、校歌に「理想の光」をも「見極めて」強く進もうと歌っています。ここに伊中の燃える意気があります。

1921年（大正10年）に県立伊丹高等女学校が開校しました。場所は行基田、東大寺大仏を勧進した行基ゆかりの地です。校歌に「いざや清めん我がみさを」と歌い、常に自身の在り方を振り返る美しさに満ちています。

1945年（昭和20年）、日本はポツダム宣言を受け入れ無条件降伏しました。昭和22年の学制改革にともない、伊丹中学校と伊丹高等女学校は伊丹高等学校に引き継がれました。校訓は両校が大切にしていた人としてのあり方を引き継ぎ、「誠実、克己、忠恕」としました。校歌は「野を立ちこむる霧分けて 陽は輝かに昇るなり」と新しい国づくりを胸に、「いざや讃えんわが命」と生きることの喜び・かけがえのなさを歌っています。

時は移り、昨年、東日本大震災が起こりました。世界の情勢も混迷の中にあります。日本が国民を大切にす秩序ある国として栄えるために、さらに、対話する粘りが一層必要とされるこれからの国際社会で名誉ある地位を占めるために、我々みなよりよい未来を築いていこうとする意思をもち冷静な努力を積み重ねていかねばなりません。生徒諸君は県立伊丹高等学校で、授業を通じ学び考える力を、生徒会活動や部活動をつうじて人の世で対話し生きていく力を、震災復興や地域でのボランティア活動を通じて判断力と行動力を、身に付けていきましょう。

幾多の変化とそれに伴う困難を乗り越えてきた、県立伊丹中学校、伊丹高等女学校、伊丹高校の先輩方の

これまでを引き継ぎ、これからの県立伊丹高等学校での活動を充実させることを誓って、創立110周年の式辞といたします。

大西 孝 兵庫県教育長挨拶

北摂の山並みに錦秋の気配が漂い始めた今日の佳き日に、兵庫県立伊丹高等学校が創立110周年を迎えたことを、心からうれしく思います。

また、本日の式典を挙げるにあたり、ご多用中にもかかわらず、多くのご来賓のご臨席を賜りましたことに厚くお礼を申し上げます。

本校は、明治35年に前身である県立伊丹中学校が、阪神間における最初の県立中学校として創立され、昭和23年の学制改革に伴い、大正10年に創立された県立伊丹高等女学校と合併し、県立伊丹高等学校となり現在に至っています。前身となる両校の創立以来、卒業生は3万2千人に及び、これまで有為な人材を世に輩出してきました。これはひとえに、生徒一人一人の勇往邁進と歴代校長及び教職員の崇高な教育愛、人間愛による並々ならぬ努力の成果であり、また保護者、同窓会および地域の方々の献身的なご支援の賜物と深く敬意をあらわすとともに感謝申し上げます。

県教育委員会では、平成21年度に策定された「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づき、「元気兵庫」の原動力となる「こころ豊かな人づくり」をめざし、県民すべてがかかわる教育の実現を図るとともに、夢や志を抱き未来を切り拓く子どもたちの「生きる力」を育む教育を推進しています。県立高等学校においては、魅力ある高校づくりを一層推進するため、学校のさらなる特色づくりをすすめています。

このような中、本校は「文武両道」の校是のもと、希望進路の実現、人間関係構築力の育成を二つの柱として、学習はもちろん学校行事や生徒会活動にも活発に取り組み「生きる力」を育んでいます。また、毎年1,500人の来校者を数える県伊祭やラグビーカーニバルなどを通じた地域との交流、さらには同窓会やPTAも協力して独自のキャリア教育や東日本大震災復興支援を通じての防災教育など、未来の社会を支える教育を充実させる学校づくりを推進しています。

このように県立伊丹高等学校がその特色を発揮し、魅力に一層の磨きをかけていることを心強く感じるとともに、この学びの成果を阪神地域のみならず全県に情報発信し、兵庫の教育の牽引役となることを期待しています。

最後になりますが、兵庫県立伊丹高等学校が110周年を契機として益々発展し、校歌の一節にある「松の梢と いや高く 伸びゆく力 天をつく」のごとく、地域はもとより世界で活躍する人材を育むことを心より祈念いたします。

平成24年10月6日

兵庫県教育長 大西 孝

荒木 芳雄 緑窓会会長挨拶

県立伊丹高等学校創立110周年記念式典に際しまして、一言、挨拶申し上げます。

まず、兵庫県教育委員会 教育長 大西 孝様のご挨拶誠に有難うございます。併せまして、多数のご来賓の皆さまのご臨席賜り厚くお礼を申し上げます。お陰様で本校の110周年記念式典をこの様に盛大に迎える事が出来ました。心から感謝申し上げます。

申し遅れましたが私は記念式典の実行委員長を務めさせて頂いて居ります本校緑窓会 会長の荒木芳雄で

ございます。ここにご出席の皆様とご一緒に記念式典が盛大に開催出来ました事に、心から感謝申し上げます。誠に有難うございます。

さて、兵庫県立伊丹高等学校は、前身の、兵庫県立伊丹中学校、1902年設立、(明治35年)並びに、兵庫県立伊丹高等女学校、1919年設立、(大正11年)されました両校の歴史と伝統を受け継いで今日の兵庫県立伊丹高等学校として発展して参りました。古い名門の高等学校であります。

私が本校に入学いたしましたのは、1952年(昭和27年)であり、ちょうど本校の創立50周年記念の年でありました。祝創立50周年記念の横断幕が校内あちらこちらにかけられていました。学校全体が祝賀ムードで溢れていました。私は当時創立50年もの長き伝統校に入学できました慶びをいまだに鮮明に覚えております。

入学時に頂いた、生徒必携、生徒手帳の事ですが、最初のページに“本校の目的は、信念と愛情に徹し、誠実な社会人と成る人材を育成する事を目的とすると記されております。“これが県高魂の神髄ではないかと思っています。それから、さらに60年が経過して、本日の110周年記念を迎える事となりました。在校生の皆さんも、私が入学した50周年の時と同じような感動を受けられたのではないのでしょうか?110周年記念は時間の通過点に過ぎないかも知れませんが、生涯この通過点は皆さんの心に何時までも残る筈です。その時はどうか、母校の事を思い出してください。

この県高魂は、これからも10年20年50年へと後輩たちに繋がれていくものと思います。本校は創立以来30,000人を超える卒業生を輩出しております。国内外の政財界の舞台で活躍をされている多くの先輩達がそれぞれの分野で、県高魂を発揮して頑張っておられます。在校生のみなさんを暖かく、見守ってくれています。

今や世界は政治的にも、各国でリーダーの交代が続出し一部不安定な情勢が見られます。経済的にもリーマンショック以来、世界経済が低迷しております。先行き不透明な要素が見られますが、皆さんは惑わされることなく、今、しなければならぬ、勉強と体力の向上に努めてください。そして、世界の変化を見抜く洞察力を身に付けて下さい。

私は今有りますのは、県高のお蔭であると感謝の気持ちで一杯であります。県高に入学したい、県高に入ってよかった、卒業生であることが誇りに思える、そんな高等学校になってほしい。それは皆さん一人一人の熱意にかかっています。

簡単ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。本日の記念式典誠におめでとうございます。

篠原 光宏 P T A 会長挨拶

本年度より P T A 会長をさせて頂いております篠原光宏と申します。兵庫県立伊丹高等学校創立 1 1 0 周年の佳節に当たり、P T A を代表しまして一言挨拶申し上げます。

本日多方面からご参集頂きましたご来賓の皆様方、並びに 1 1 0 年の歴史を築き、長きにわたり様々な方面から、本校を支えてこられた緑窓会の諸先輩方をはじめ当記念式典の役員の皆様、そしてこれから新しい歴史を刻み行く在校生の皆様、本日は誠にありがとうございます。

世の中には目に見える宝と見えない宝があります。その中で最も美しい宝はやはり、人の心ではないでしょうか。

オー・ヘンリーの名作「賢者のおくりもの」には、美しい心が描かれています。物語では、貧しい夫婦がお互い相手を思って、プレゼントをします。妻は、夫がほしがっていた懐中時計につける鎖を買うために自分の自慢のきれいな長い髪の毛を切り、売ってお金にし、鎖を買いました。

一方、夫は妻がほしがっていた櫛を買うために、一番大事にしていた鎖のない懐中時計を売ってお金にし、櫛をプレゼントをしました。結局、夫の手元には鎖だけが、そして髪が短くなってしまった妻の手元に櫛が残りました。しかし二人はお互いに相手を思う心が嬉しくて幸福をかみしめる。という内容です。

人の心には様々な力が備わっています。大切な友人を勇気付けたり、家族を慈しんだりする心。

周囲の人を幸せな気持ちにさせることが出来、逆に悲しませたり、傷つけたり、不幸にさせてしまうこともあります。そして人はその心を、言葉に乗せて伝えることが出来ます。また言葉がなくとも行動で伝えることが出来ます。携帯電話のメールが一般的に利用され始めたのは2000年、今から12年前の事です。とても便利なコミュニケーションツールとして現在では欠かせない物となっています。

しかし、メールでは要件だけは伝わるものの、声の高さ低さ、強さ弱さ、うれしさや悲しさと言った、心の抑揚みたいなものが、なかなか伝わりにくいものです。どうか皆様には大切な友人や恋人、家族に対して大事な話をするときには、出来る限り直接あって、相手の目を見ながら言葉を使って、心を通わせて頂きたいと思います。

高校時代の友人は一生の友達です。これからの人生様々な障害や、苦難が待ち構えておりますが、ともに励ましあい、時には慰めあいながら、皆様の美しい心を生の声で伝えながら、成長して行ってください。毎日の心がけで人生そのものがすばらしいものとなっていくことを切に願っています。物や、お金は「自分次第」で、「心次第」で善にも悪にもなります。

心こそ大切なれ、と申し上げまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

上原 理歩生徒会長 喜びの言葉

私たちの兵庫県立伊丹高等学校は、今年で百十周年を迎えました。伊丹中学校、伊丹高等女学校と、私たちが生まれる前から、多くの先輩方によって引き継がれた伝統により、今日ここに、百十周年記念式典が開催されることを心より喜びたいと思います。

長年の伝統を受け継ぎつつ、今年から始まった、月曜日の朝に行われるSTの時間での小テストや、75分授業など、新たな取り組みによって、私たちの学校生活は、より充実したものとなっています。

一方で、県伊祭や体育祭などの学校行事で、生徒が自主的に責任を持って準備・運営をすることや、放課後も一生懸命、文武両道をめざして部活動に励み、運動部も文化部もすばらしい成績を残している点などは、先輩方から引き継いだ伝統であると思います。自主的に行った行事を成し遂げた時の達成感は、なかなか味わえるものではありません。これからも先輩方が築いた、県高生全員が自主性を高められるような行事づくりを私たちは引き継いでいきたいと思います。

百十周年という記念すべき年に、生徒会長としてこの場であいさつをさせていただけることを、心から感謝しつつ、「喜びの言葉」とさせていただきます。

平成二十四年十月六日

生徒会長 上原 理歩



来賓をお出迎える生徒会執行部



来賓をご案内